



藤谷 謹至
議員
(拓政会)

問 登下校中の児童生徒が死傷する交通事故が全国で相次いでいる。

千葉県館山市では、学校に登校するためバスを待っていた児童の列に軽乗用車が突っ込み小学1年生が亡くなる悲惨な事故。

また、京都府亀岡市で児童ら10人が死傷した事故は、未成年の、しかも無免許の少年が引き起こした無謀な事故として全国に衝撃が走った。このような事故は、歩行者がいくら交通規則を遵守し気をつけても未然に防ぐ事は難しい事ではある。しかし、日頃からの交通事故に対する指導啓蒙や教育委員会を中心に学校、家庭、警察、交通安全指導員、地域ボランティア等の連携協力を強化することが重要である。

本町においても子供達の安全を確保するために交通事故対策、不審者対策等再確認することが必要ではないか。

問 児童生徒の通学路安全対策と不審者対応の考えは

答 学校、家庭、地域社会が一体となつて取り組むことが必要と考えている

そこで、以下の点について伺う。

- ①通学路における安全対策について。
- ②交通安全マップの作成と更新について。
- ③不審者から子供を守る対策について。

教育長 ①毎年、学校ごとに安全点検を行い、通学路を指定しているが、必要に応じて町長部局と協議を行い、交通安全指導員の配置などの対応に努めている。

また、通学路の安全点検と通学時における児童生徒への指導を行い、交通安全設備の整備についても関係機関と連携し進めている。

②幕別町児童生徒健全育成推進委員会が、町内小学校の高学年を対象にしたアンケートを踏まえて作成したもので、安全マップには、事件の危険を感じた場所のほか、子ども110番の家、交通事故の危険箇所、交通安全指導員や交番・駐在所の位置などが示されている。

作成後、年数も経過し、社会環

境も変化していることから、今年度更新すべく、対応しているところである。

③各学校それぞれが、「不審者に遭遇した時に、適切に判断し、適切な行動をとることができるようにする」ことを重点的に児童生徒に指導している。

また、安全確保対策では、交通安全指導員のほか、退職校長会や地域のボランティアの方々による見守り活動、子ども110番の家の設置、青色回転灯を装備した防犯パトロール車の巡回、さらには、本年度からは児童生徒の下校時以降の見守りを行うスクールガードを配置し、多くの視線を地域や子どもたちに注ぐことによって、犯罪の未然防止に取り組んでいる。

今後においても、学校、家庭、地域、関係団体が一体となつて、子どもたちが安心して安全に教育が受けられる環境づくりに努めていきたい。



札内南小学校児童の下校の様子

再質問 不審者対策について、地域に開かれた学校を求めるあまり、児童の安全・生命までも脅かす状況になるのであれば、当然、学校の一般・OB等の訪問等について、規制等も視野に入れ検討すべきと考えるがいかがか。

答 地域に開かれた学校、そのことはすぐその犯罪者が云々というような議論になる場合もあり、逆に言えば、開くことによって多くの目で監視をするということにもつながることもあり、私どもの教育委員会としては、規制すべきというところには至っておりませんし、そうすべきではないというふうに思います。